

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402416		
法人名	社会福祉法人 新切福祉会		
事業所名	グループホーム「ゆうか」		
所在地	長崎県南島原市有家町尾上2896番地2		
自己評価作成日	令和2年 11月 2日	評価結果市町村受理日	令和3年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年12月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人法に定める非営利の法人による運営のグループホームです。同一敷地内にあった保育園は移転しましたが、散歩の途中に立ち寄り下さき子供たちとの交流があります。また、敷地から望む雲仙普賢岳が季節の移り変わりを感じさせる環境にあります。グループホームの特徴としては、  
 ※車両(車椅子対応)を複数台所有し、通院や外出等がスムーズにできるように配慮しています。  
 ※社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、看護師、ケアマネージャー等の有資格者が勤務しています。  
 ※これまでのかかりつけ医に引き続きかかって頂けるようにしています。  
 「家庭のくつろぎと家族のいたわり」を理念として、一日一日を大切に前向きに頑張っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは北に四季折々の風情を感じられる雲仙普賢岳を臨み、南には有明海を一望できる自然に囲まれた環境にある。ホームリビングの窓からは同法人保育園児の散歩する姿が見え、入居者の楽しみとなっている。職員は入居者の楽しみ・喜びは何かを考え、入居者のこれまでの活動継続の支援や外出の企画、また、日々の関わりの中での些細な要望も見逃さず対応するよう努めている。ホームと地域との関係性は良好で、地域の方からの季節の野菜や果物の差し入れ、地域情報の提供、消防団の避難訓練への参加など地域との協力体制を構築している。訓練後には消防団がホーム周辺の環境や水利の確認、避難経路を確認するなど有事の際の早期対応に繋げている。ホーム内研修を職員が担当制で開催しており、職員の学びへの意識が高くスキルアップに繋がっている。当ホームは家庭的な雰囲気があり、入居者・職員ともに笑顔が絶えない温かなホームであることが窺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 ゆうか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的なくつろぎと家族のいたわりのある生活を」という理念の元、職員採用時、職員会議時にこの理念にこめられた思いを話している。	開設当初から掲げるホーム理念はリビングに掲示しており、職員は日々の業務の中で確認し周知している。職員は毎月の会議で家庭的で入居者本位の支援ができていないかの振り返りを行い、理念の実践に努めている。ホーム長は年間事業計画を作成し、年度初めに職員へ説明し周知を図ることで理念の具体化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校やこども園の行事、お祭り、文化展への出展など積極的に参加し交流を深めている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため行事等は中止となった)。	ホームには地域の方から季節の野菜・果物の差し入れや地域行事のお知らせがあり、職員もお礼の品を持って地域の方を訪ねるなど日常的に交流し、地域との協力体制を築いている。地元小学校の子どもたちと入居者が一緒にサツマイモを育て、小学校で行われる収穫祭に入居者も参加し交流を図るなど、入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中、高校の福祉体験学習を受け入れ、認知症やグループホームについての説明を行い理解を深める努力をしている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため行っていない)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族の代表、地域の代表、行政の職員等に参加頂き、日頃のサービスや取組状況、事業計画等を二か月に1度開催し色々な立場からの意見、要望等を聞きサービスの向上につなげている。	運営推進会議には家族・消防団副団長・市福祉課職員が参加し、活発な意見交換の場となっている。会議では開催に併せて実施した避難訓練時の消防署からの助言について家族及び地元消防団へ伝え、今後の対応を検討することで入居者の安全確保に努めており、面会状況や入居者・ホームの実情を伝えることで家族の安心に繋げている。また、家族の希望に合わせて次回の会議開催の日時を決定するなど、参加促進に向けた取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種行政手続き、運営推進会議、介護保険関係等の相談や助言、支援をして頂く働きかけを行っている。	ホーム長は介護保険更新時や生活保護の手続きのほか、近くに立ち寄った際にも市福祉課を訪問し、ホームの実情を積極的に伝えることでホームへの理解を深めている。生活保護の方に関してはケースワーカーと連携を図りスムーズな入居に繋げるとともに、入居後も安心して過ごせるよう支援している。職員は昨年度島原地域広域市町村圏組合主催による記録に関する研修会に参加し、記録物の見直しを図った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての研修や、職員会議にて話し合いを行い、身体拘束をしない援助を行っている。	身体拘束廃止に関するホームでの取り組みや現状について運営推進会議で報告し、ホームの透明性を図っている。また、毎月の職員会議でヒヤリハットや事故報告事例の振り返りを行い、今後の対策を検討することで職員間での共有を図っている。今年5月には「高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止」、6月には「身体拘束排除の為の取り組み」についてホーム内研修を開催し、職員の学びの機会とした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて議題にあげ、職員同士が話し合い互いに声掛け合いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解を深めるようにしている。以前、南島原成年後見センターの日常生活自立支援事業を利用した例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご家族ご本人との面談を行い、理解しやすいような説明を行う事に心掛けており、都度疑問点や不安の有無を確認し納得して頂けるよう努めている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため入院中の方とはほぼ面談できなかった)。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	諸々の意見を職員会議にて共有し又、運営推進会議においても公表し外部からの意見も含め運営に反映させている。ご意見箱の設置や苦情の窓口の紹介、重要事項説明書では第三者委員及び県社協の運営適正委員会の案内も行っている。	ホームは家族の面会時及び電話連絡の際、または毎月郵送する「ゆうか便り」に入居者の状況報告書と家族の要望・意向を記入する用紙を同封することで家族の意向把握に努めている。職員は入居者の日頃の様子や表情の変化を見逃さず、話を傾聴することで思いを引き出し、希望に沿えるよう支援している。入居者・家族の要望は申し送りノートや会議で周知し、運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中でも意見交換しており、反映させている。	職員は毎月のユニット会議と職員会議の中で入居者のケアや業務に関する意見交換を行い、サービスの向上に努めている。入居者の食事形態の検討や手すりの設置など職員の提案を取り入れることで入居者の安心に繋げている。ホーム長は日頃より職員とコミュニケーションの機会を多く持つことで意見が言いやすいよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対するやりがいを感じられるよう、個々に合わせた就労形態をとる等環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを把握し個々に合った研修に行くようにしている。研修終了後には復命書を作成し職員会議の中で研修内容を発表し他職員とともに意識、能力向上に努めている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため外部研修等がほぼ中止となったため、毎月の内部研修のみ)。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会へ加入しホーム長会議への出席、意見交換において得た情報の共有、各種研修への参加を促しサービスの質の向上に努めている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため研修等がほぼ中止となった)。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者がご家族ご本人と複数回面談し、ご本人ご家族の訴え、要望を聞きとったり、感じ取り、提案、実践することで安心できる環境・関係が気づけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に現在の状況や、要望をお聞きしより良い援助に向けた関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を把握し、サービス導入段階から要望を反映できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員は家族の一員だという認識をもって日々生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人の要望をよく聞きようになっている。ゆうかだよりや、お手紙、面会時に本人の状況をお話することで現在の様子を知って頂き協力して頂けるような事があればお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や、ドライブにて馴染みの場所へお連れしたり、行きつけの美容室へ行ったり、お墓参りへお連れしたりして関係が途切れないようにしている。	ホームはコロナ禍に伴う面会制限があることを踏まえ、窓越しの面会や電話の取り次ぎなど入居者と家族の関係継続の支援に努めている。入居者の希望に応じて馴染みの美容室や墓参りなど家族と職員が協力し支援するほか、習字や作品づくりなど趣味活動の継続支援にも努め、市の文化展に出展した作品を入居者全員で見に行くなど入居者の喜びとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットを隔てずに知人や同郷の方などと交流を図ったり、レクリエーションや日頃のケアの時も関わりを持って頂ける機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退所となった利用者へのお見舞いに伺ったり、又、その家族からの相談にのりその後もフォローをしている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため入院後の方とは会うことができなかった)。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での中での会話などから本人の思いを聞いたり、感じたときその思いを汲み取り援助に反映させている。	職員は家庭菜園を趣味としていた方が家族の準備した野菜苗を家族と一緒に植えられるよう支援しており、毎日の水やりを自分で行うことがその方の楽しみとなっている。また、入居前に習字教室をしていた方については月に2回自宅に送迎し弟子の方とともに習字教室を開くなど、本人の希望に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族のみでなくこれまでサービスの利用があれば、担当ケアマネや医療機関からの情報の収集を行いその方に合ったサービスの提供をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方、心身の状況を把握し小さな変化も気付けるよう注意して情報共有、状況の変化に応じた対応が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時、カンファレンス時に担当職員からの情報、ご家族からの意見要望もお聞きし、現状に合った介護計画を作成している。	家族の意向について、ホームでは「ゆか便利」に同封した意向確認用紙や電話連絡で把握し、介護計画に反映している。職員は個別サービス内容を記載したモニタリング表に実施状況を毎日記録し、15日と月末に評価することでサービスの実施状況を確認している。また、3か月毎や退院時・状態変化時にケアカンファレンスを行い、現状に即した介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、個々の情報はケース記録に記載し職員間で共有している。後での振り返りや計画の見直しに約立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を尊重し一人一人の状況に応じて臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流、地域行事の中止がほとんどであったが、日常生活の中での役割や、やりがいを持って頂く支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人、ご家族と相談しかかりつけ医への受診を勧めている。入居前時よりのかかりつけ医の方が利用者も安心されている。職員もそれぞれのかかりつけ医との連携をとり体調不良時には受診し日頃の状態を主治医へ詳しく報告している。	ホームでは遠方の医療機関がかかりつけ医であっても入居前のかかりつけ医が受診できるよう支援しており、現在3か所の医療機関から週2回訪問診療があるほか、週1回の訪問看護の訪問により入居者の病状把握に努めている。また、主治医のコメントを記載した通院介助記録の写しを家族へ郵送し報告し家族の安心に繋げるほか、夜間に入居者の状態が変化した時にはかかりつけ医へ連絡し指示を仰ぐことで早期治療に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態を観察把握し看護職員に報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は病院関係者との情報交換、連携を密に行い早期退院に向けた取り組みを行っている。又、定期的に病院関係者との情報交換を行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を交付している。もし、状態に変化があった場合には利用者とそのご家族の意向に応じそれに沿った支援が出来るよう適宜職員、主治医、ケアマネ等関係者と連携し情報共有している。	入居前に看取りの指針やホームで対応し得るケアについて家族へ説明し同意を得ており、在宅酸素・点滴への対応が可能である。入居者の状態に応じて家族と主治医とホームで話し合いを行い、入居者・家族の意向に沿えるよう支援している。今年8月にホーム内にて「緊急時の対応」についての研修会を開催し、職員の学びの機会となった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が順次、救命救急の講習を受けたり、消防学校の宿泊訓練へ参加している。急変時や事故発生時に迅速に対応できるよう応急処置、緊急連絡の手順の理解に努めている。受講後は職員会議にて他職員へもその内容を発表する場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し年2回避難訓練を実施している。そのうち1回は夜間想定や自然災害想定し地元の消防団の参加にて、消火、通報、避難誘導の訓練を行い、消火器、通報措置、避難経路の確認が出来るようにしている。訓練後は職員会議にて消防署よりの指定事項や、反省点の話し合いを行っている。	職員は毎年交替で消防学校の訓練に参加することで消防についての知識を深め、有事の際の迅速な対応に繋げている。避難訓練には地元消防団が参加し、消防署からの助言もいち早く全消防団員へ伝達するなど地域との協力体制を構築している。避難訓練後には消防団員がホーム周辺の環境や水利の確認、避難経路を確認するなど入居者の安心に繋げている。今年度の台風接近の際には4名の職員がホームに待機し、入居者の安全確保に努めた。	備蓄品としての食料品3日分は同法人保育園に保管しているもののリストの確認ができなかった。何を保管しているのか把握できるよう備蓄品の種類や数量のリストを作成し、有事に備えることを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を重視した上でその人に合った言葉掛けを行っている。言葉使いや態度にて利用者が萎縮したり、恥ずかしい思いをしないように職員間でも注意しながら言葉かけの配慮をしている。	職員は入居者への声掛けの際、方言を含みながらも目上の方に対する尊敬の念を忘れず丁寧に対応しており、排泄失敗時にはさりげない言葉掛けで対応し、その方の尊厳を傷つけないよう努めている。今年4月には「職業倫理及び法令順守」についてホーム内研修を行い職員の日々の振り返りの機会としたほか、令和3年1月には「利用者のプライバシー保護」の研修を行う予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の意思を尊重し、意見や希望などが言い易いような配慮をしており、お買い物や美容院など希望があればそれに沿うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活や習慣に応じて、居室で過ごしたり、ホールで過ごしたりと本人の希望やご家族に情報を頂きながら希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室や理容院など希望を聞き予約や送迎、付添を行っている。外出時や受診時などもお気に入りの服などを本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の残存能力を生かして調理の補助など職員と利用者で協力し合い食事の準備をして、食事に楽しみを持って頂いている。旬の食材を取り入れ栄養のバランスや利用者の好みを取り入れたメニューを工夫している。	同法人の管理栄養士の助言をもとに職員が献立を作成し、栄養バランスが取れた食事を提供している。地域の方からの季節の野菜や果物の差し入れが食卓に上がるなど、季節を感じ食事が楽しいものとなるよう努めている。また、入居者一人ひとりの能力に合わせて刻み食・ミキサー食・トロミなどに対応し、安心して食事が摂れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や習慣に応じて食べたい物、食べる量、食事形態をその方に合わせて提供している。水分補給もその方に合わせた形態、温度で提供している。毎食毎に食事摂取量のチェックを行い記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛け誘導を行い実施している。自力困難な方には、介助を行い口腔清潔を心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用に関してはご家族の経済的負担にもつながるので出来るだけ減らせるように努力している。その方に合わせた声掛け、誘導を行い出来るだけトイレでの排泄を行っている。	職員は排泄チェック表で入居者個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援しており、立位困難な方やオムツ使用の方についても職員が介助することでトイレでの排泄に繋げている。また、夜間帯も可能な限りトイレへ誘導するよう努めている。オムツやリハビリパンツ、尿取りパットを使用している方について時間帯やオムツの種類など検討し、不必要な使用にならないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、小まめな水分補給や散歩などを行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やその日の体調に注意しながら一人一人に沿った入浴支援を行っている。	ホームでは入居時に同性介助が良いか確認することで、入居者の希望に沿った支援となるよう取り組んでおり、衣服の着脱時はタオルを掛けるなど羞恥心に配慮し、入浴が楽しいものとなるよう努めている。入浴後は入居者本人や家族希望の保湿剤の塗布、主治医処方軟膏を塗布するなど皮膚疾患予防に努めている。重度の方については職員2人で介助を行い、安全に入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族からの情報を元に日頃の生活習慣を考慮し、居室にて昼寝をしたり、ホールにて職員と過ごしたり自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の通院記録の作成や、処方薬をまとめたファイルを作成し、何の薬を飲んでいるのかといった情報を日々更新し把握するようにしている。服薬しづらい方には、トロミをつけたり服薬ゼリーを用い確実に服薬出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望や趣味を取り入れ、季節の行事の飾り付けや作品の作成等にて楽しんで頂く工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子のまま乗車出来る車両があるので季節や体調に配慮しながら外出している。また、ご家族の協力の元、墓参り等の支援も行っている。	ホーム横に同法人保育園跡地の芝生グラウンドがあり、天気の良い日には外気浴や散歩、弁当持参でピクニックを行うことが入居者の楽しみとなっている。職員は入居者が家族と外出する際に送迎の支援や身体の状態、排便の状態を伝え、外出が楽しいものとなるよう支援している。季節に応じて紅葉見学や夜のイルミネーション見学を行うなど、入居者の喜びとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状態や能力に応じ、ご家族とも相談のうえでお金の所持をして頂いている。ご自分でお支払いが出来る方は、希望のお店にて買い物を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に応じて電話を掛けたり、かかってきた電話を取り次ぎ、自由にご家族知人との会話を楽しませている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人が過ごしやすいように照明、カーテン、ソファの位置の配慮をしている。空調も利用者に合わせて調節し換気も行っている。玄関、ホールには季節のお花や、利用者が作成した作品等を飾って楽しんで頂いている。	ホームリビングは天井が高く大きな窓からは温かな光が差し込んでおり、キッチンからは調理する音や匂いがするなど家庭的な雰囲気がある。入居者それぞれが希望する場所でゆっくりと過ごせるよう三方面にソファを配置しており、リビングや廊下の窓からは有明海やもみじの木を見ることができ、入居者は気分転換することができる。窓は外気からの寒暖を防げるよう全て2重窓となっており、快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、好きな場所に座っておしゃべりを楽しんだり、一人になりたい時には居室へ行き、好きな時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅で使われていた馴染みの家具や品物をお持ち頂き、安心して過ごして頂くように配慮している。	居室の掃き出し窓からは明るい光が入り温かな空間となっており、籐のタンス・テレビ・仏壇・家族写真・家族からの贈り物や手紙が持ち込まれており、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。仏壇を持ち込んでいる方についてはご仏飯の支援を行うなど入居者の気持ちを大事にしており、本人が書いた習字を掲示することで趣味活動の継続に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を探し、トイレ、食堂、居室等の理解をし、行動できるよう支援している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 アネックス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的なくつろぎと家族のいたわりのある生活を」という理念の元、職員採用時、職員会議時にこの理念にこめられた思いを話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校やこども園の行事、お祭り、文化展への出展など積極的に参加し交流を深めている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため行事等は中止となった)。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中、高校の福祉体験学習を受け入れ、認知症やグループホームについての説明を行い理解を深める努力をしている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため行っていない)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族の代表、地域の代表、行政の職員等に参加頂き、日頃のサービスや取組状況、事業計画等を二か月に1度開催し色々な立場からの意見、要望等を聞きサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種行政手続き、運営推進会議、介護保険関係等の相談や助言、支援をして頂く働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての研修や、職員会議にて話し合いを行い、身体拘束をしない援助を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて議題にあげ、職員同士が話し合い互いに声掛け合いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解を深めるようにしている。以前、南島原成年後見センターの日常生活自立支援事業を利用した例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご家族ご本人との面談を行い、理解しやすいような説明を行う事に心掛けており、都度疑問点や不安の有無を確認し納得して頂けるよう努めている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため入院中の方とはほぼ面談できなかった)。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	諸々の意見を職員会議にて共有し又、運営推進会議においても公表し外部からの意見も含め運営に反映させている。ご意見箱の設置や苦情の窓口の紹介、重要事項説明書では第三者委員及び県社協の運営適正委員会の案内も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中でも意見交換しており、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対するやりがいを感じられるよう、個々に合わせた就労形態をとる等環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを把握し個々に合った研修に行くようにしている。研修終了後には復命書を作成し職員会議の中で研修内容を発表し他職員とともに意識、能力向上に努めている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため外部研修等がほぼ中止となったため、毎月の内部研修のみ)。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会へ加入しホーム長会議への出席、意見交換において得た情報の共有、各種研修への参加を促しサービスの質の向上に努めている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため研修等がほぼ中止となった)。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者がご家族ご本人と複数回面談し、ご本人ご家族の訴え、要望を聞きとったり、感じ取り、提案、実践することで安心できる環境・関係が気づけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に現在の状況や、要望をお聞きしより良い援助に向けた関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を把握し、サービス導入段階から要望を反映できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員は家族の一員だという認識をもって日々生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人の要望をよく聞きようになっている。ゆうかだよりや、お手紙、面会時に本人の状況をお話することで現在の様子を知って頂き協力して頂けるような事があればお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や、ドライブにて馴染みの場所へお連れしたり、行きつけの美容室へ行ったり、お墓参りへお連れしたりして関係が途切れないようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットを隔てずに知人や同郷の方などと交流を図ったり、レクリエーションや日頃のケアの時も関わりを持って頂ける機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退所となった利用者へのお見舞いに伺ったり、又、その家族からの相談にのりその後もフォローをしている(今年度は新型コロナウイルス感染予防のため入院後の方とは会うことができなかった)。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での中での会話などから本人の思いを聞いたり、感じたとりその思いを汲み取り援助に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族のみでなくこれまでサービスの利用があれば、担当ケアマネや医療機関からの情報の収集を行いその方に合ったサービスの提供をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方、心身の状況を把握し小さな変化も気付けるよう注意して情報共有、状況の変化に応じた対応が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時、カンファレンス時に担当職員からの情報、ご家族からの意見要望もお聞きし、現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、個々の情報はケース記録に記載し職員間で共有している。後での振り返りや計画の見直しに約立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を尊重し一人一人の状況に応じて臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流、地域行事の中止がほとんどであったが、日常生活の中での役割や、やりがいを持って頂く支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人、ご家族と相談しかかりつけ医への受診を勧めている。入居前時よりのかかりつけ医の方が利用者も安心されている。職員もそれぞれのかかりつけ医との連携をとり体調不良時には受診し日頃の状態を主治医へ詳しく報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態を観察把握し看護職員に報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は病院関係者との情報交換、連携を密に行い早期退院に向けた取り組みを行っている。又、定期的に病院関係者との情報交換を行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を交付している。もし、状態に変化があった場合には利用者とそのご家族の意向に応じそれに沿った支援が出来るよう適宜職員、主治医、ケアマネ等関係者と連携し情報共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が順次、救命救急の講習を受けたり、消防学校の宿泊訓練へ参加している。急変時や事故発生時に迅速に対応できるよう応急処置、緊急連絡の手順の理解に努めている。受講後は職員会議にて他職員へもその内容を発表する場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し年2回避難訓練を実施している。そのうち1回は夜間想定や自然災害想定し地元の消防団の参加にて、消火、通報、避難誘導の訓練を行い、消火器、通報措置、避難経路の確認が出来るようにしている。訓練後は職員会議にて消防署よりの指定事項や、反省点の話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を重視した上でその人に合った言葉掛けを行っている。言葉使いや態度にて利用者が萎縮したり、恥ずかしい思いをしないように職員間でも注意しながら言葉かけの配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の意思を尊重し、意見や希望などが言い易いような配慮をしており、お買い物や美容院など希望があればそれに沿うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活や習慣に応じて、居室で過ごしたり、ホールで過ごしたりと本人の希望やご家族に情報を頂きながら希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室や理容院など希望を聞き予約や送迎、付添を行っている。外出時や受診時などもお気に入りの服などを本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の残存能力を生かして調理の補助など職員と利用者で協力し合い食事の準備をして、食事に楽しみを持って頂いている。旬の食材を取り入れ栄養のバランスや利用者の好みを取り入れたメニューを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や習慣に応じて食べたい物、食べる量、食事形態をその方に合わせて提供している。水分補給もその方に合わせた形態、温度で提供している。毎食毎に食事摂取量のチェックを行い記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛け誘導を行い実施している。自力困難な方には、介助を行い口腔清潔を心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用に関してはご家族の経済的負担にもつながるので出来るだけ減らせるように努力している。その方に合わせた声掛け、誘導を行い出来るだけトイレでの排泄を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、小まめな水分補給や散歩などを行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やその日の体調に注意しながら一人一人に沿った入浴支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族からの情報を元に日頃の生活習慣を考慮し、居室にて昼寝をしたり、ホールにて職員と過ごしたり自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の通院記録の作成や、処方薬をまとめたファイルを作成し、何の薬を飲んでいるのかといった情報を日々更新し把握するようにしている。服薬しづらい方には、トロミをつけたり服薬ゼリーを用い確実に服薬出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望や趣味を取り入れ、季節の行事の飾り付けや作品の作成等にて楽しんで頂く工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子のまま乗車出来る車両があるので季節や体調に配慮しながら外出している。また、ご家族の協力の元、墓参り等の支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状態や能力に応じ、ご家族とも相談のうえでお金の所持をして頂いている。ご自分でお支払いが出来る方は、希望のお店にて買い物を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に応じて電話を掛けたり、かかってきた電話を取り次ぎ、自由にご家族知人との会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人が過ごしやすいように照明、カーテン、ソファの位置の配慮をしている。空調も利用者に合わせて調節し換気も行っている。玄関、ホールには季節のお花や、利用者が作成した作品等を飾って楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、好きな場所に座っておしゃべりを楽しんだり、一人になりたい時には居室へ行き、好きな時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅で使われていた馴染みの家具や品物をお持ち頂き、安心して過ごすように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を探し、トイレ、食堂、居室等の理解をし、行動できるよう支援している。		